

事例研究について

～日頃の実践を事例研究につなげよう～

どうやったら研究発表できるか

○そんなに難しく考えない

○上手くいった事例を書き出す

○なぜ上手くいったのか考える

○いろんな事が重なっているがこれだっていうの
を選ぶ

○絞った事実と考察を述べる

実践事例を研究する場合の方法

○事例の省察

- ・事例、行った支援、その成果、それらの関連性等について振り返って深く考える。

○何らかの理論を使って考える

- ①意図的に○○理論・○○アプローチを使ってみた結果、生まれた成果について考え直してみる。
- ②行った支援を、○○理論・○○アプローチという観点から見直してみたときに、何に気づくか？
新たな知見が得られるか？
とれたかも知れない異なった支援等について気づきを得る。

実践への向き合い方

【実践→考察】

1. 事例が先にあって、後から考える

(例) Aさんの援助を工夫して行った。その結果、Aさんへの援助は上手くいった。

→研究の姿勢: 行った援助の意味(なぜ上手くいったのか)を解釈する。

【意図的实践→考察】

2. 援助方法の工夫が先にあり、事例はその証明となる。

(例) Aさんの援助に対して、意図的にある方法を用いた。その結果として、Aさんへの援助が上手くいった。

→研究の姿勢: 行った援助の効果を判断する。

成功事例を扱おう

- ・事例研究では、成功事例を扱おう
 - ・対応が難しかったが、援助に工夫した結果として援助が上手くいった場合、その事例（成功事例）は研究に値する事例。
 - ・事例研究をして、その成果の理由を明らかにすることは、今後の援助に役立つ知識を得ることになる。
- ・失敗事例を研究し、教訓や克服すべき課題を抽出することもある。

※対応が難しく悩んでいる事例は・・・事例検討会へ

事例研究の進め方

1. どんな事例を事例研究するのか

① 稀な事例

② 支援が困難だった、または支援に工夫を要した事例

③ 理論的に正しい支援方法

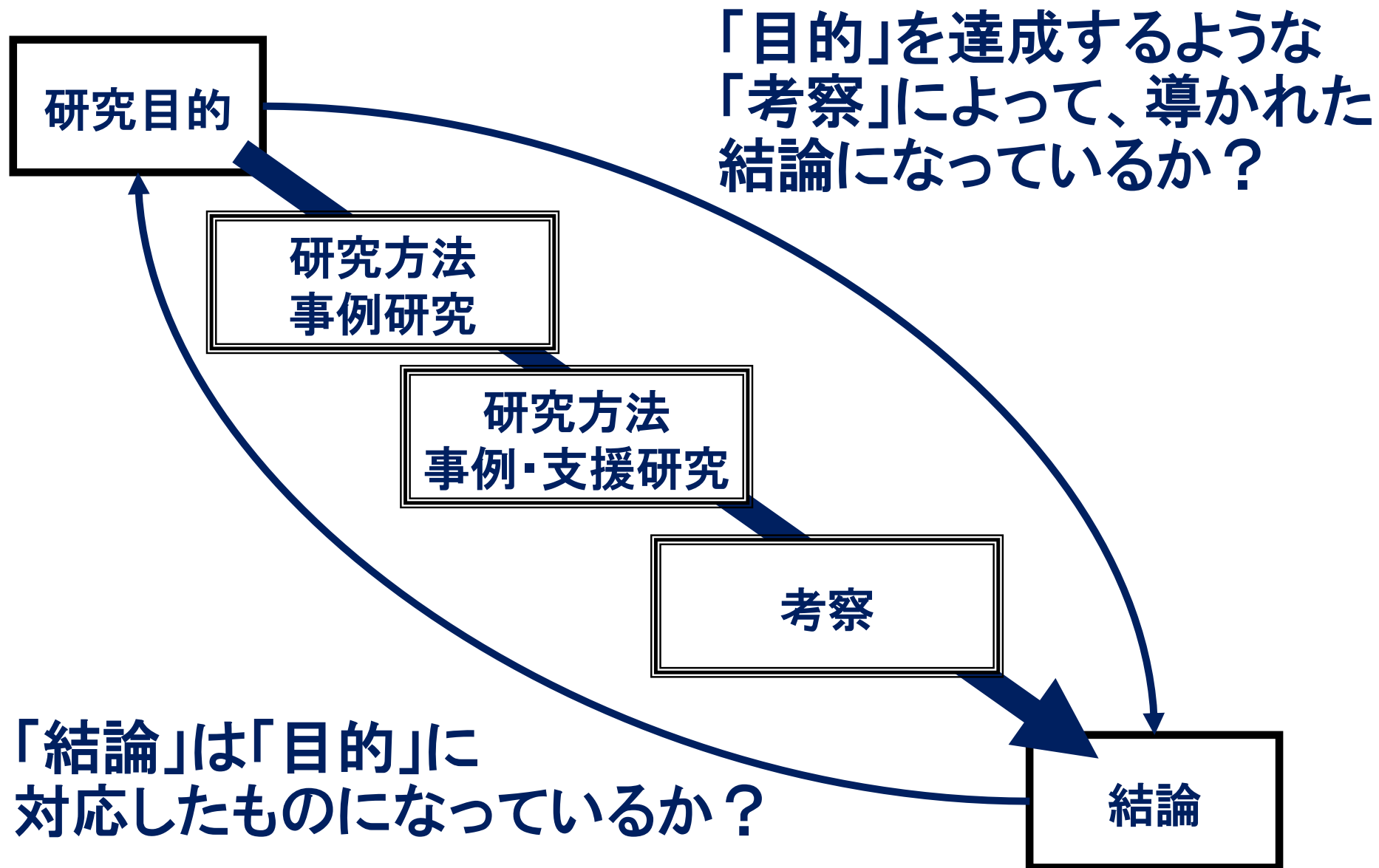
④ 従来の方法に一工夫したもの

2. ありのまま書き出す

3. 支援経過を捉え直す「観点」を見つける

4. 「つまり」を考える

研究目的と結論の関係を常に意識する



事例研究のプロセス

日常の実践

(着想を 得る)

「この事例には何か大切なことが隠れているように感じる」事例との出会い

①事例を書き出してみる

②研究の焦点を絞る

③関連する情報を集める

④得られた情報をもとに、
事例の中に隠れている
大切なことを言語化する

⑤結果の解釈、レポート・
論文の執筆

知識

研究対象(事例)のテキスト化

問題意識の明確化、同僚との論議、
など

先行研究のレビュー、必要な情報
についての追加収集など

②③④を行きつ戻りつしながら、
「この事例の中に隠れている大切な
こと」を見つけようと努力する。

新たに得られた知見の評価、残さ
れた課題の明確化、など

質的研究プロセス

①着想を得る段階

- 「この事例には何か大切なことが隠れているように感じる」「この事例から何か大切なことが考えられるのではないか」と思える経験を大切にする。
- 着想の段階では、「これは大事！」と思える反面、何が大事なのかは分からないことも多い。
- この事例について「事例研究をする！」という決心をしたら、事例研究のためのノートやファイル・バインダー、あるいはワープロの文書ファイルを作る。PCの場合、この文書ファイルのショートカットキーをデスクトップに置いておくことは、事例研究をするという「決心」を常を感じさせてくれるかも知れない。

② 事例を書き出してみる

- ・事例を時系列で書き出してみる(研究対象である「事例」のテキスト化)
- ・書いてみる作業の中から「③研究の焦点」が見えてくることがある。また、事例を読み解くために「④関連する情報を集める」ことによって「③研究の焦点」が見えてくるともある。つまり、事例を分析することは「行きつ戻りつしながら、深めていくプロセス」といえる。

③ 研究の焦点を絞る段階

- ・この事例を掘り下げて考えていく時の「研究のテーマ」「目的」を絞る(これは、研究の問い(Research Question)でもある)。
- ・自分自身に「つまり、この事例から何を考えたいのか？」と問いかけていく。

④ 関連する情報を集める段階

- ・研究テーマや目的に沿って、関連する情報(事例に関する情報、研究テーマに関連する文献ー先行研究ー等)を集める。
- ・先行研究を入手し、読むことで、自分がこの事例から何を考えたいのかが整理されていく。

⑤ 得られた情報をもとに、事例の中に隠れている大切なことを言語化する段階

- ・この作業も「行きつ戻りつ」しながら深まるもの。
- ・「先行研究の中にある知見」を参考にしながら、事例の支援プロセスを見直すことで、ケアマネジャーがこのような事例に直面した時に考えなければならないことを言葉にしていける。
- ・集め、整理した情報をもとに、研究目的(研究の問い)に対する結果(答え)を出す。

⑥ 発表する段階

- ・このようにして事例について深く考えること(事例研究)から得られたことを「研究発表」「事例研究レポート」「論文」等にして発表する。

考察する際の“コツ”

① 大事だと思う部分に線を引いてみる。

② この線を引いた部分は、「何が、どのように大事なのか？」を考えてみる。

- ・ ただし、「線を引く部分」は、読み手(＝事例研究の主体者)が「何を見ようとしているか」によって変わってくるはず
ex.「ケアマネジャーが用いた技術」「利用者の感情」「サービスや社会資源の調整方法」「ケアマネジメントの効果」等々。
- ・ そのため、読み手(＝事例研究の主体者)は、自分がこの事例から何を読み取ろうとしているのかについて、常に意識的である必要がある。(こうした問題意識の持ち方は、研究の問い(Research Question)と関係してくる。

- ・「なるほど、こういうときには、こういうふうにしたら、うまくいくことがあるんだ」と思えた。



- ・ そのように、うまくいくのは「なぜか？」を説明できれば、他の援助者も、その方法を「原理」をわかって活用できる。
 - ・ 「原理」がわからなければ、「とにかく、こうするんだ」という経験至上主義でしか、伝えられない。

考察のコツは、「思いを抑える」

- ・ 研究発表をする人の思いが強いと、「こうなんです！絶対こうなんです！」と言い過ぎてしまう。その思いを抑えて研究を進めることが、説得力がある研究につながる。
- ・ 言いたいことはたくさんある。しかし、研究目的に照らして、何を中心に述べるか(幹)を考える。「幹」を述べるのに邪魔な「枝葉」を刈り込むことが大切。

**認知症で寝たきりの母と
他者との介入を拒絶する息子への関わり**
～保健師との明確な役割分担とクライアント中心アプローチの実践～

那賀町地域包括支援センター
主任介護支援専門員
湯浅 雅志

・背景

- ・介入できないと放置されている事例があった。

何を言ってもダメ！
息子さんがいる限り
介入できない！

薬が切れてるのに受診
や往診の連絡をしても
息子に拒否される



- **背景**

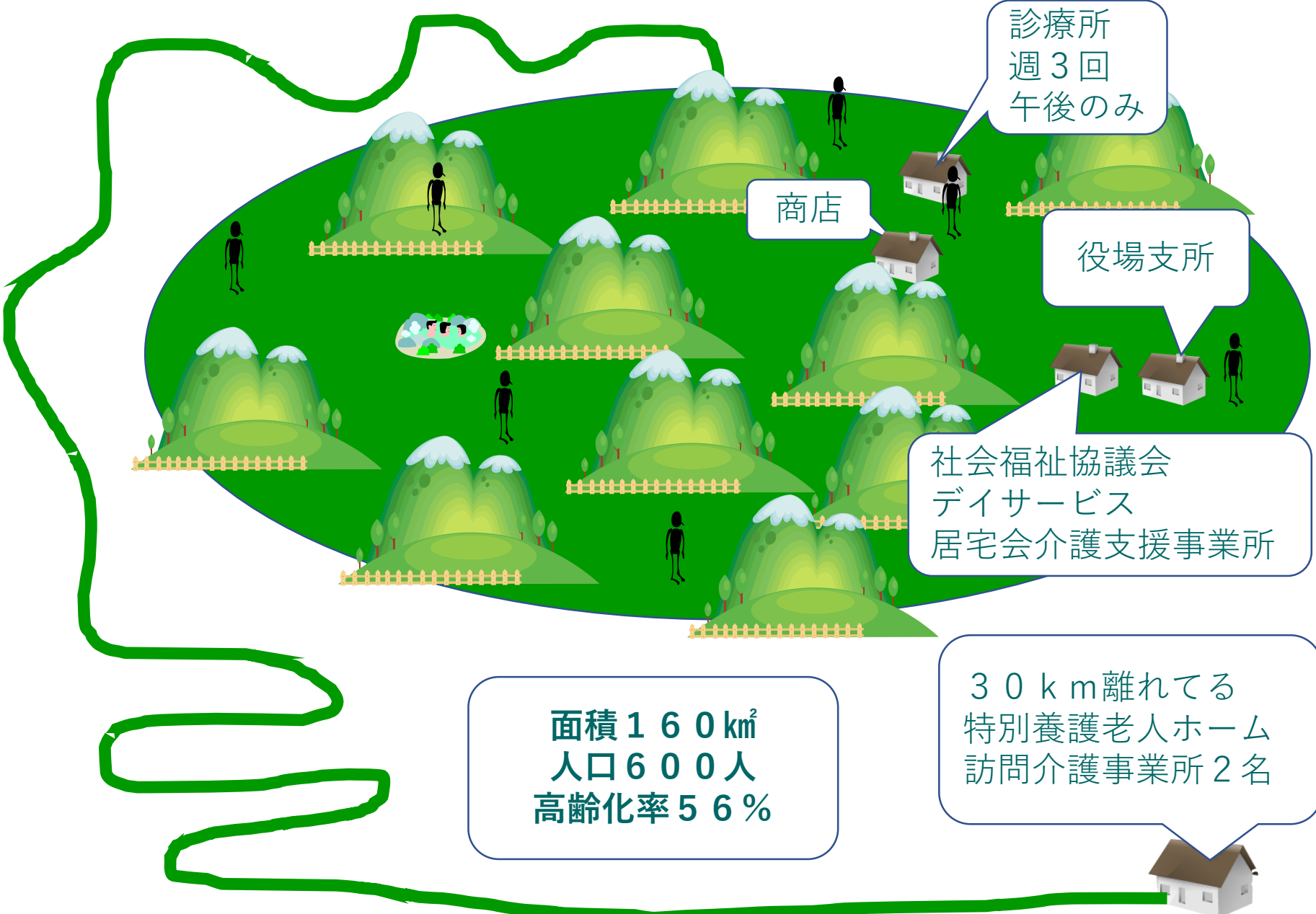
- 介入が困難と言われているがあるが本当に介入困難なのか？
- 対応に問題があるのではないだろうか？

• 背景

- 対人援助の基本と考える「クライアント中心理論アプローチ（純粹に受容し正確な共感的理解を伴う態度）を行うことで信頼関係を構築することができるのではないか？
- 役割分担を行うことで、信頼関係を築きながら問題について話し合えるのではないか？

- 目的

- 他者の介入を拒絶する息子に対し、どのようにすれば信頼関係を構築し介入することができるのか、事例を通して考察した。



診療所
週 3 回
午後のみ

商店

役場支所

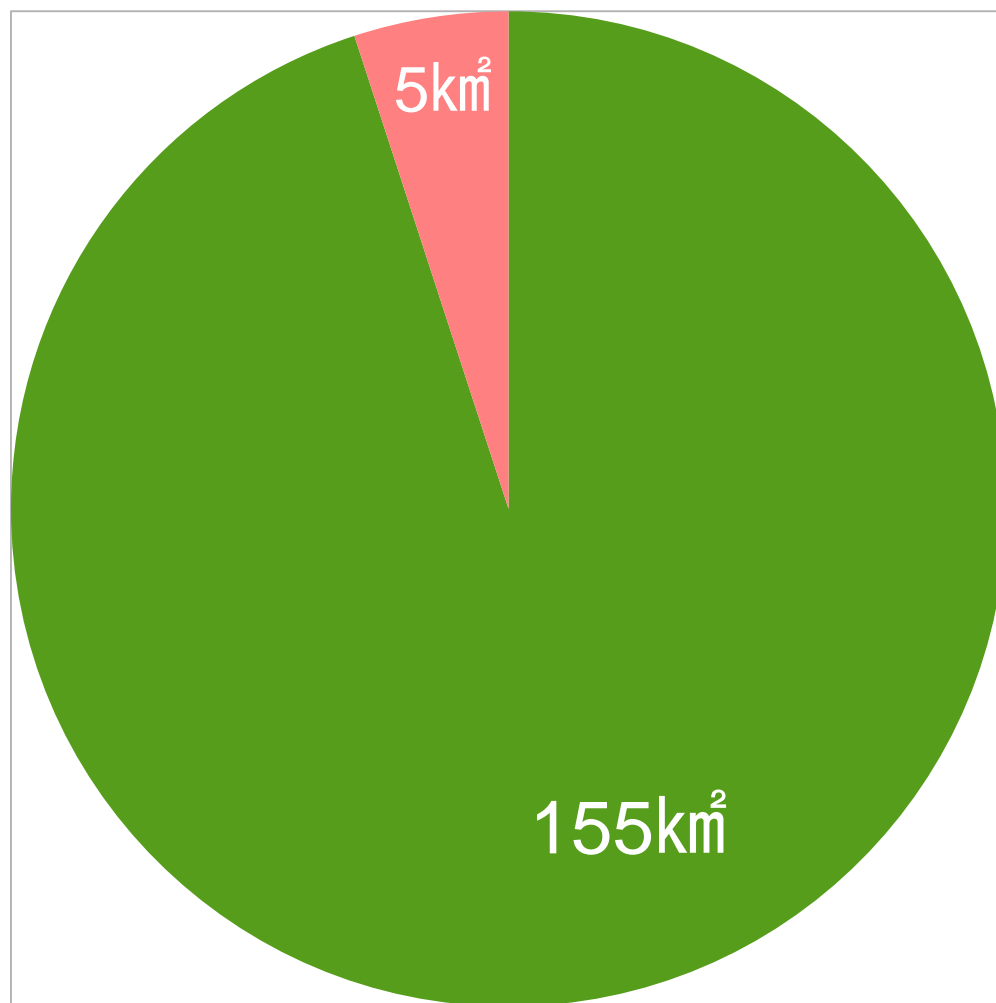
社会福祉協議会
デイサービス
居宅会介護支援事業所

面積 1 6 0 km²
人口 6 0 0 人
高齢化率 5 6 %

3 0 k m 離れてる
特別養護老人ホーム
訪問介護事業所 2 名



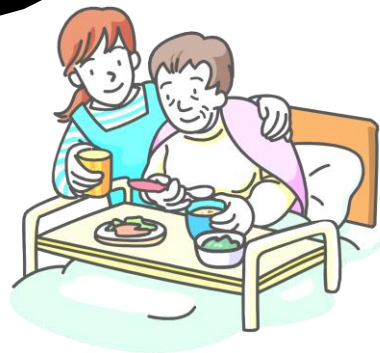
可住地面積 3%



- 森林面積
- 可住地面積



事例概要 A氏(母)



事例概要 B氏（息子）



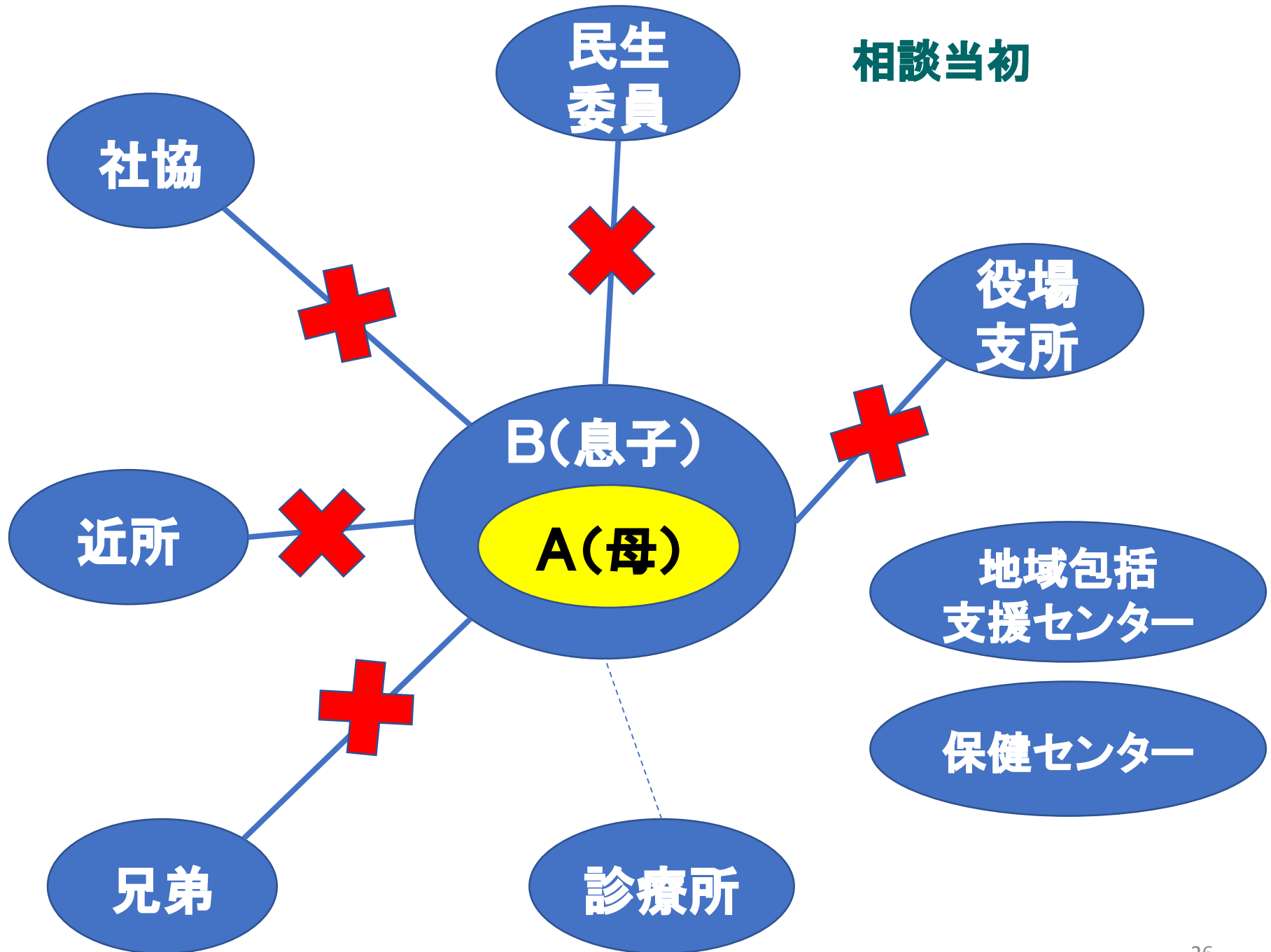
薬が切れてるのに受診
や往診の連絡をしても
息子に拒否される



何を言ってもダメ！
息子さんがいる限り
介入できない！



相談当初



介入困難な事例にどうしたら介入できるか。

適切な対応方法を伝える役割

- 治療や服薬の必要性
- 制度やサービスの説明
- 介護の方法



話題づくり(問題提起)

信頼関係を構築する役割

- 純粹に傾聴する
- 受容的に関わる
- 共感的理解を生み出す



クライアント中心主義
アプローチ

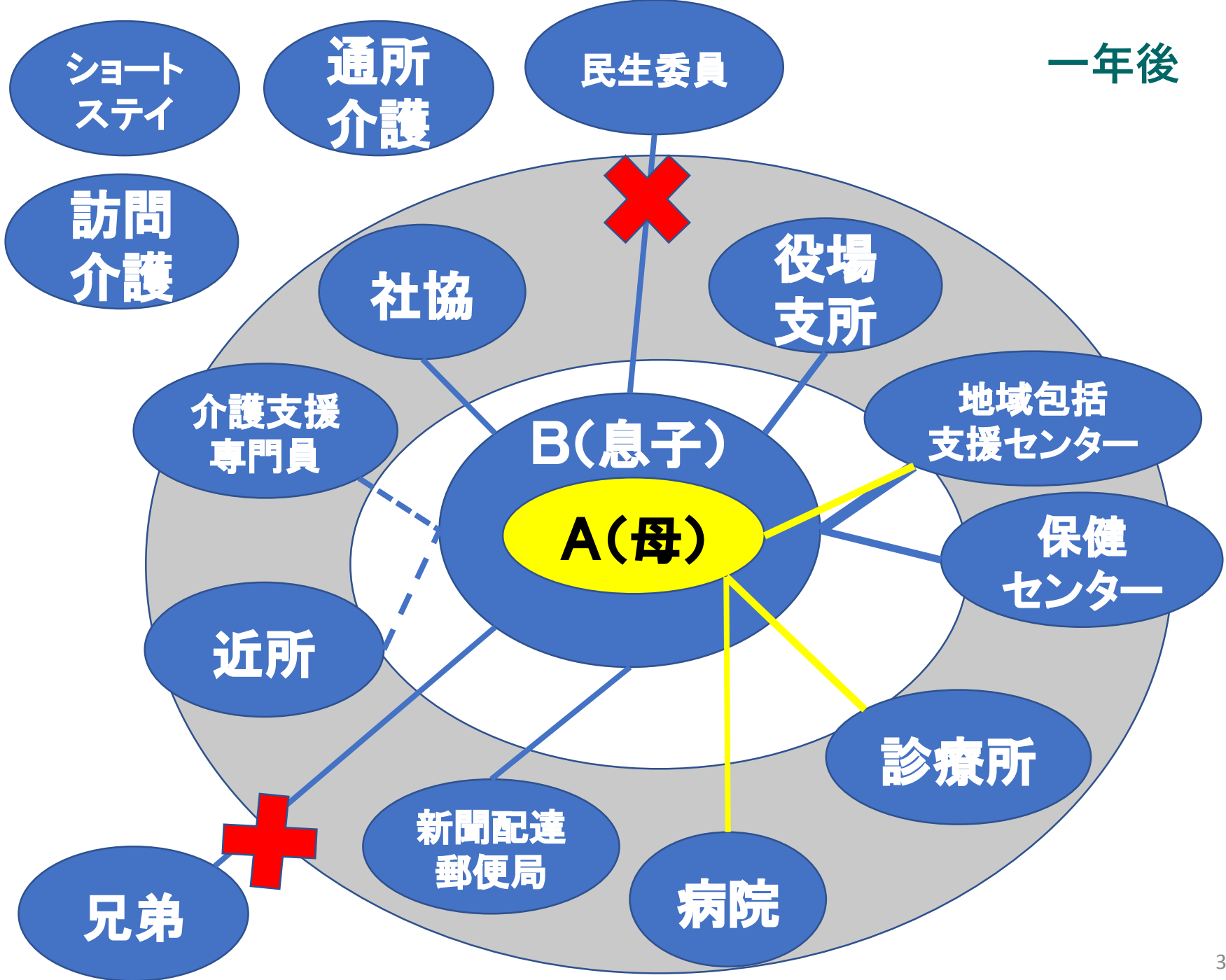
見えてきた息子の思い

- お金がない・生活が大変
- 施しは受けたくない
- 役場や病院は文句ばかり言う
- 病院は金儲けのために薬をたくさん出す
- 薬は体によくない・もったいない
- 母を大事にしたい
- 母と一緒にいたい
- 母の意思を尊重したい→一緒にいたいはず

結果

- ・クライアント中心アプローチを展開することで息子と信頼関係を構築することができた。
 - ・息子が感じていること思っていること気になることを話してくれるようになった
 - ・報告者を通して専門職(医師等)の助言を受け入れてくれるようになった
- ・適切な対応方法を伝えることで息子の引っかかっていることが見えてきた。
 - ・息子とそのことについて考えたり、他の専門職の意見を聴く気になってくれた。
 - ・息子の対応方法と適切と考えられる対応方法の違いについて話し合う機会ができた。
 - ・息子が何を大切にしているのかがわかった。

一年後



役割分担することで事例が前に進む

適切な対応方法
を伝える役割

信頼関係を
構築する役割

・やるべきことが
提示される

・何が引っかかって
るのか共有できる



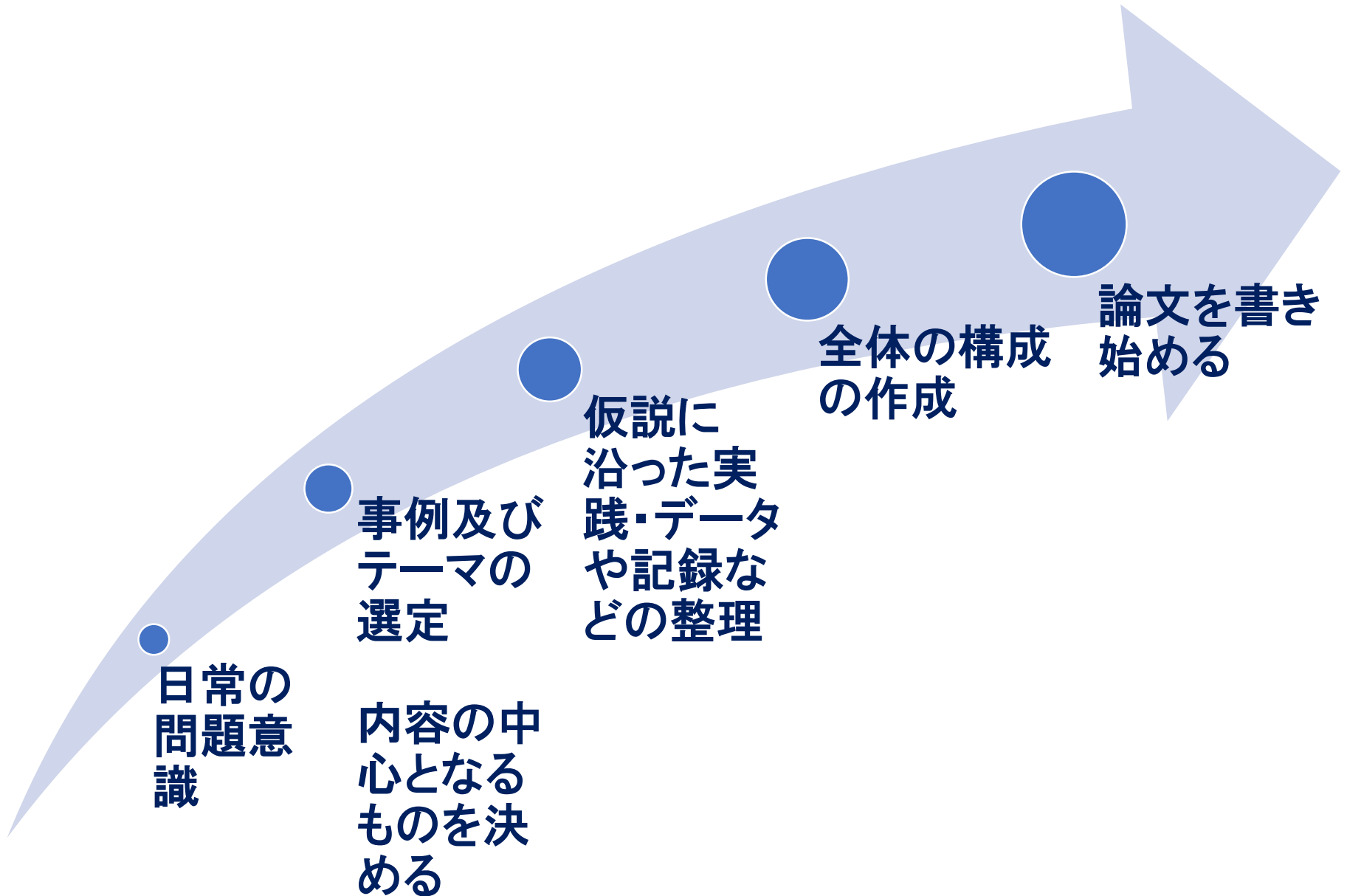
考察の練習をしてみましょう

- ① 大事だと思う部分に線を引いてみる。
- ② 線を引いた部分は「何が、どのように大事なのか？」

「何が、どのように大事なのか？」を考えるためには、そのことが「誰にとって、どのように大事なのか？」を考えてみるとよい。

- ③ ②を考えて、「この事例から学べること」を的確に表した「タイトル」を考えてみましょう。

事例研究の進め方



事例研究の内容(例)

- 1 はじめに(要旨・研究目的)
- 2 研究方法(事例の概要)
- 3 事例の展開
アセスメント内容・援助内容・援助の結果
モニタリング内容・担当者会議の内容など
- 4 考察
- 5 おわりに
- 6 参考文献・引用文献

タイトルについて

- ・ 内容がわかりやすく表現されていること
 - ・ タイトルは発表の看板
 - ・ 発表要旨の提出直前まで、何度でも書き直してみるとよい。
- ・ タイトルは、発表内容を明確かつ簡潔に伝えるものを考える。
 - × 認知症高齢者の居宅介護支援
 - 帰宅願望の強い認知症高齢者へデイサービスと連携しながら支援した事例

今泉美佳(2003)『ポスター発表はチャンスの宝庫』羊土社、p.21.

福富昌城(2018)「介護支援専門員が行う実践研究の意義と方法」『徳島県介護支援専門員協会ケアマネジャー実践研究発表支援研修会』

事例研究発表の構成と時間配分(例)

		発表時間	
章立て	内容	10分	15分
1. 研究目的	問題の所在	2分	2分
	研究の意義		
	重要な先行研究のレビュー		
	研究の目的		
2. 研究方法	データ収集・分析の方法	1分	1分
	倫理的配慮		
3. 研究結果	事例の概要、支援経過	3～4分	5～6分
4. 考察及び結論	考察	3～4分	5～6分
	結論		
	謝辞		

発表原稿を用意する

- 必ず発表原稿を用意する。
- 発表原稿があることで、緊張して頭が真っ白になっても、その原稿を読み上げることで発表を乗り切れる。
また、原稿はタイムキーパーの役割もしてくれる。
- 人間が読む(喋る)スピードは、だいたい1分間に300～350字程度。
 - 400字になると、かなり早口に聞こえる。
 - 10分間＝ 3,000字～3,500字
400字詰原稿用紙換算で7枚半～8枚半程度

本論について

① 研究方法について

- ・ 方法の概略を簡潔に示し、詳細は抄録で触れる。
- ・ 場合によっては、1枚のスライドで調査方法を簡潔に説明するだけにとどめる。

② 結果について

- ・ カギになるもの2～4つ程度にとどめる。
- ・ 結果は図を用いて説明するとわかりやすい。

③ 考察について

- ・ 結果の解釈と、そこから得られる示唆を提起する。

結論について

- ・ 研究の重要な部分をまとめる。
- ・ 必ず、研究の目的、カギとなる結果、そして解釈と示唆を要約する。
- ・ 実践への示唆(サジェスチョン)
- ・ 研究で得た結果が、実践にどのように役立てられるかを述べる。

質疑応答

- ・ 質問に答えるとき
- ・ 質問に答える前に、「ご質問、ありがとうございました」があると丁寧。
- ・ 質問の内容を要約して、もう一度くり返してから、返答をする
と丁寧。
- ・ 返答はなるべく簡潔に。
- ・ 答えられないような質問の場合、率直に「わかりません」と答える
勇気も必要。

発表の仕方

ーよいプレゼンテーションの10ヶ条ー

- ① 内容を理解している
- ② 内容の構成がよい
- ③ 聴衆のレベルとプレゼンテーションが合っている
- ④ プレゼンテーションのアイテムのデータの質がよい
- ⑤ プレゼンテーションのアイテムがわかりやすい
- ⑥ 聴衆を見て話している
- ⑦ 適切な言葉を選んでいる
- ⑧ 落ち着いている
- ⑨ 謙虚である
- ⑩ ユーモアがある(?)

事前
準備

発表
本番

大隅典子(2004)『バイオ研究で絶対役立つプレゼンテーションの基本』羊土社、p.50.

福富昌城(2018)「介護支援専門員が行う実践研究の意義と方法」『徳島県介護支援専門員協会ケアマネジャー実践研究発表支援研修会』

スライドの文章

- ・1枚のスライドに示せる文章量には制限はないが...
- ・見やすいという点から考えると文字フォントは28フォント以上とする。
- ・6～7行程度に文章を納めることが望ましい。
- ・文章量が多すぎると、逆に聞き手に内容が伝わりにくい。

輸血できる血液型

A型は、A型とO型から輸血できて、A型とAB型に輸血できる。

B型は、B型とO型から輸血できて、B型とAB型に輸血できる。

O型は、O型からしか輸血できず、O型とA型とB型とAB型に輸血できる。

AB型は、AB型とO型とA型とB型から輸血できて、AB型にしか輸血できない。

輸血できる血液型

